

茂倉岳・多分、これが最後の避難小屋泊縦走登山（個人山行）

（報告）赤澤 東洋

◎期日：2024 年 6 月 21 日（金）～22 日（土）

◎同行者：ナシ

昨年 10 月、JR 土樽駅から茂倉新道を辿り改修工事を終えた茂倉岳避難小屋に泊まり、翌日茂倉岳→蓬峠→土樽駅へ戻る周回コースを辿るも、1 日目に途中へばって避難小屋まで達する事叶わず、小屋手前の川棚の頭 1683m でビバークせざるを得なくなり我が不甲斐なさを呪った。目安となる矢場の頭 1490m 迄ガイドブックの標準タイムで 3～3 時間半とある所を登り始めの急登と檜廊下の通過に疲労困憊し 5 時間 15 分もかかった。22 年前は 3 時間 20 分、5 年前でも 3 時間 55 分だった事を思えばあまりにも遅すぎる。ともかく行ける所までと前進したもののすっかり消耗し、川棚の頭でのビバークとなってしまった。この時の山行報告は[こちら](#)にあり。

80 歳を過ぎ急激に老化が進行しあっちもこっちもガタつき思うように動けなくなってしまったが、新装なった避難小屋に泊まるという当初の目的を果たせず悔いが残りいかにも残念、何とかリベンジしたいと思ったがもう絶対にあの上りはご免被りたい。であればあの急登と黒檜帯は上りではなく下ればいいではないかと発想転換、天神平から逆コースで辿ってみようと天気予報を注視、群馬県に晴れマークが付いたのを確認し梅雨入り前の貴重な晴れ間、チャンス到来急遽出かける事にして 5 時 48 分の一番電車に乗り込んだ。谷川岳へは普段は車が多いがコースにより電車を使う事もあり、ここ 10 数年は土合の 500 段近い地下階段は回避し水上駅でバスに乗り替えロープウエー駅へ直行する事を覚えた。もぐら駅の階段上りは草臥れるし、この方が 30 分程時間短縮出来るのだ。

ゴンドラ降りると天神平は視界数十㍎程の濃霧に覆われ機先を制せられたが、午後から晴れ間もとの予報信じてボチボチ歩き始めている先客達の後を追う。1 時間程で熊穴沢避難小屋着となり、折から小糠雨が降り出したので雨具を着こむ。ここから先天狗の溜り場までが天神尾根ルート最大の難所、雨水に表土が流され露出する岩肌は滑るし歩き難い急登の連続となりたちまち青息吐息、10 歩進んでハアハア、両膝に手を付き息整える。熊穴沢小屋からさらに 1 時間かかって何とか天狗の留場に着いたが雨が本格的となり視界はゼロ、心が折れそうになる。狭い登山道はまだ続くものの、木の根や岩をつかんでの急登はここまで、あとは少し楽になるから頑張れと己を叱咤激励する。担ぐ荷物は極力軽くしてきたつもりだが、まだゴミが入っていたかも、缶ビールと酒パックは外せないしなあと埒もない事を考える。ザンゲ岩の少し先から肩の広場の一角に出ると広いガシ道となり階段が切っており残雪も出てきて漸く着いた肩の小屋に飛び込むと 10 名程の先客が雨宿りしていた。もうヨレヨレで今日はこれまで、無理せず小屋に泊めてもらおうと小屋番さんに宿泊を申し込むと「出来ません。今日は団体の予約で一杯です」とつれないご返事「アッチャー」とガックリだった。時計を見るとまだ 1 時「しゃあない、行くしかないか」と前進を決意、ここで退却としなかったのは正解だった。まだ与力が残っていたものか。

まずは腹ごしらえとお握り頬張ってエネルギーを補給し水を飲む。外は 15 分程休んだだけなのに雨はやみ明るくなる兆しで「ヨッシャー！」気合を入れてトマの耳に向った。トマの耳は小屋から約 10 分、これが生涯 57 回目の山頂で、振り返り見れば群馬県側谷川本谷から発生した雲海が俎倉山稜と国境稜線を越え、風に乗って越後側万太郎谷へと流れ落ちている。これぞ滝雲と称する自然現象、この近くでは枝折峠が有名で車で行けるので賑わっているが、ここ谷川岳も知る人ぞ知る撮影ポイント、自力で歩かねば見られないだけ希少価値ありで、雨の中頑張ったご褒美に疲れが癒された。



トマの耳より肩の小屋、俎倉山稜にかかる滝雲

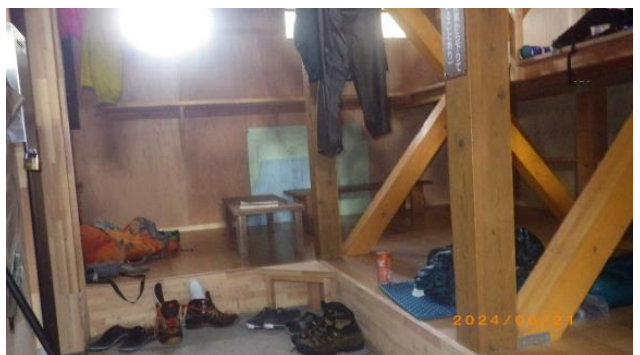


トマの耳より右 オキの耳 中央一ノ倉岳 左茂倉岳

天気は急速に好転しているようだが、オキの耳から一ノ倉岳までの痩せた岩稜帯は雨に濡れて滑り易く腰が引けてしまう。このルートはこれが9回目、50代の頃ならポンポンと駆け下りたように思うのだが、今は恐怖心が先に立ちおっかなびっくり一歩一歩慎重に足を運ぶしかない。まだまだ死にたくない私。そして目の前にそそり立つノゾキの先の一ノ倉岳、「うひゃー」の思いだが、これは想定内、ここが最後の関門、ここさえ頑張れば後は楽勝、高低差はわずか130mしかないのだと己に言い含めここでも10歩歩いては膝に手を付き息整える事数十回で一ノ倉岳の頂上に立つことが出来た。この先茂倉岳までは平坦で歩き易く湿地帯にはイワイチョウ、ヨツバシオガマ、ミヤマダイヤモンドソウ等可憐な高山植物が咲き乱れ、本日初めてゆったりと落ち着いてお花の写真タイムとした。



イワイチョウとイワカガミ



避難小屋室内

2年越しの茂倉岳避難小屋着 16時25分、先客あり、ソロ女性1、男性1、男1・女2の3人組の5名、埼玉県新座のソロ女性（20代後半か？）は天神平を9時半頃出発、小屋着14時頃と云う。こちらより2時間以上早いのはまあしゃあないか。いつもソロで沢にも行きたいとおっしゃるので、山岳会入会を勧めシリウスの名刺を渡し、HP見てねと云ってきたが連絡無し、警戒されたのか、あるいはHP覗いて合わないと思ったのか。



新装なった茂倉岳避難小屋

22年11月新装なった小屋は建屋の大きさは旧来通りだが、入口の場所が変わり別棟だったトイレと屋根で繋がって利用し易くなっていた、内部も柱や天井の梁が強化され灰かに木の香りもしている。棚やテーブルも便利で発砲スチロールはマット代わりにもあり、棚を使えば20人位は収容できそう。ギリギリの思いで担いできた缶ビールでまずは乾杯、夕焼けを見に外へ出るとブロッケン現象に歓迎され雨の日山行頑張った甲斐ありだ。翌日は蓬峠や朝日岳に向かうという先客達を見送り5時出発、問題の檜廊下や急登も楽々通過、4時間で登山口に着き昼の電車に充分間に合った。



微かに見えたブロッケン現象

《コースタイム》

- 1日目：天神平 9：20→10：25 熊穴沢小屋→11：40 天狗の溜り場→12：50 肩の小屋→15：30
ーノ倉岳→16：25 茂倉岳避難小屋
2日目：茂倉避難小屋 5：00→6：35 矢場の頭→9：40 茂倉新道登山口

◎今年の夏は北ア・燕岳や北東北・岩手や青森の山を計画していたが、お天気との相性も悪くタイミングを逸し、さらにはあの酷暑や家族のコロナ感染、車のかすり傷2件等あり7月も8月もどこへも出かけてない。以前なら出かけられずヤキモキし焦っているところだが、不思議にもうどうでもいいやと達観しているのはどうなんだろう？意欲が失われた先にあるものは？？？